

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400535	
法人名	社会福祉法人 仁愛会	
事業所名	仁愛グループホーム (ロータス)	
所在地	福島県いわき市平中平窪字扇田28	
自己評価作成日	平成25年6月29日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">"http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do"</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年8月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西欧風の建物が特徴で、落ち着いた雰囲気の中、自宅での暮らしが継続できるよう支援しています。一人一人の生活パターンを知り、居室環境を整え、散歩などの外出活動も積極的に行っています。多目的ホールも完備しており、地元の中学校の福祉体験学習やフラダンスの慰問など地域交流の場となっております。また、より良いケアへの取り組みとして、職員は外部研修への積極的な参加や各種内部研修を計画的に行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を十分に理解した理念をつくり、日々のケアに取り組んでいる。管理者と職員の意思の疎通が円滑に行われ、利用者の状況や情報を共有し、統一した対応をしている。積極的に外部研修・内部研修を行い、資格取得の支援など、職員の資質の向上を図っている。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を深めるため研修会を開催し、どのようなサービスを提供するのかを話し合い、全職員で理念構築を行いました。掲示板や職員が一番、目に入る場所へ貼り、常に理念を念頭に置きながら支援したしております。</p>	<p>理念を管理者と職員が共有し、日々の中で、話し合い意識づけし、ケアに取り組んでいる。朝のミーティングで理念を掘り下げて、職員一人ひとりが小さな目標を立て実践につなげている。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>毎月グループホーム通信を発行。ボランティアの募集などの記事を掲載し、配布しております。また、地元中学校からの体験学習の受け入れや県社協の職場体験事業の登録、市民そとくろみ一斉清掃、お祭りへの参加など積極的に地域交流に取り組んでいます。</p>	<p>事業所自体が地域から孤立することなく、近所つきあいや、地元の活動や行事に参加し、積極的に交流している。多目的ホールを地域の方々やボランティアに活用してもらい、地域に貢献している。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居の申し込みや見学者に対し、認知症に関する悩みや対応方法、必要性に応じ介護保険の利用方法などを説明しています。また、管理者はキャラバンメイトに登録しており、地域の認知症の理解や支援に努めています。</p>	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバー構成も充実しており、施設内での取り組みを報告し、活発な意見交換ができています。地域への認知も深まり、今後の行事予定や参加等について話し合い、サービス向上に役立てています。</p>	<p>利用者・家族に安心していただけるよう、水害対策等について、活発な話し合いが行われている。出された問題についての取り組みの報告をしている。行政に会議の内容を伝え、検討してもらうよう依頼している。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>法の解釈や運営上での不明な点があればその都度、長寿介護課よりアドバイスや助言などを頂き、情報交換を図っております。また、派遣相談員の受け入れや包括支援センター職員も運営推進会議に参加頂いております。</p>	<p>運営推進会議で話し合われた水害対策等について、市と話し合っている。今後、行政としてどのような取り組みができるかを検討してもらっている。</p>
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止への知識を深める為、身体拘束廃止マニュアルの整備を行い、正しく理解し安易な身体拘束は行わないケアに取り組んでいます。</p>	<p>外に出たくなる利用者がいても一緒に行動することを基本にし、施錠はしていない。身体拘束をしないケアを、職員間で常に意識しあっている。言葉の拘束については、職員一人ひとりが目標を立てて、取り組んでいる。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止への知識を深める為に、内部研修を定期的に行い、外部研修にも積極的に参加し、伝達研修を実施するなどし、防止に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的な外部研修への参加を行い、全職員に対して周知を図っています。また、家族との話し合いの中で必要なケースの場合には行政と連携を図り、説明しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に沿って、変更点や改定等について解説し理解を頂くよう努力しています。又、不安や疑問があるかを尋ねながら説明を行い理解・納得を図っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に不満や要望に傾聴し、把握するよう取り組んでいます。第三者委員の設置や苦情・解決研修を実施し、常に利用者や家族からの意見や要望を反映させられる取り組みを実践しています。	面会時に利用者の状況報告をし、要望や意見をいただいている。管理者と職員は話し合いをし、日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全職員が集まる定例会議や毎朝の朝礼などで、現在問題となっている事柄について、話し合う機会を設けています。また、管理者が半年ごとに個別面接を行い、意見や提案を聴く機会を設け、反映させるよう努めています。	管理者と職員は信頼関係があり、意見の交換が活発に行われている。行事を企画・提案するなど、職員の意見が取り入れられ運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は衛生推進者として職員の労働環境整備や、腰痛対策等を行います。また、法人として人事考課システムによる、職員個々の目標設定及び業務管理などにより評価を行い、意欲向上に繋がるよう努めております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に専門分野に関する外部研修への参加を促し、その後、伝達研修を行うことにより、全職員が一定の知識習得できる工夫を行っております。加えて年間計画に沿った内部研修も実施しています。また、法人全体で資格取得への取り組みとして勉強会も開催している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の介護保険事業所の管理者が集まる管理者会議を毎月開催することや、法人内の事業所との合同研修の開催、外部研修への参加などを通じ、サービスの質を向上させる取り組みを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>申し込みや相談を受けたあと、ご本人への実調を行い、生活状態・身体状況の把握を行い、気持ちや要望を受け止めるように努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面接等の際に、プライバシーに配慮した環境のもと、ご家族の不安や困り事の傾聴に努め、家族の状況把握や事業所のサービス内容の説明等を行い、不安の軽減に努めるように配慮しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の相談時には担当CMより、状況を聞き取り、家族の話を傾聴するように努め、必要に応じて介護保険サービスの説明や居宅介護支援事業所を紹介するなど、必要とするニーズを汲み取り、気持ちや要望を受け止めるように努めています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>コミュニケーションが困難な場合においても、利用者様からのアクションを受け止め共感理解する事に努めております。また、お互いに支え合う関係作りが構築できるよう工夫に努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の際には、日ごろの状況について報告し、ご家族からの助言を受け対応するなど、信頼関係構築に努めています。また、毎月仁愛グループホーム通信を発刊し、イベント報告や予定をお知らせしています。担当職員は、当月中に撮影した写真にコメントを記載し、ご家族へ郵送し関係性の向上にも努めています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>個人が携帯電話を使用できるよう支援し、自由に馴染みの方との連絡が取れています。事業所に連絡が来ている時も本人へお繋ぎしています。馴染みの人達が気軽に来ていただけるような環境づくりに努め、ご家族との外出の協力もお願いしています。</p>	<p>家族や親戚の方がたくさん訪れ、楽しいひとときを過ごしている。行きつけの美容室や歯医者さんと継続的な交流ができ、馴染みの関係ができています。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ケース記録を共有し利用者様を深く知り、利用者同士が関わり合えるような支援を考え、個別及び集団的な活動等を実施しています。また毎日の配席にも気を配り、関係作りに努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や病院を退院後、解約になったケースであっても、希望に応じて再入所の支援を行う。また、介護保険の変更申請や他事業所への紹介等を行います。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の訴えを傾聴し、家族の意向もろががい、モニタリングやアセスメントを作成し、全職種で話し合い、日常生活スタイルについて検討します。常に気になったことや出来事などをケース記録に記載し、本人の思いや希望を汲み取ることを心掛け、本人の意向に沿うように努めています。	話をする場所を変えたり、ことばかけを工夫し思いや意向を把握するよう努めている。じっくり時間をかけて思いを聞き、職員全員で共有し、統一した対応を心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人の話から個別のアセスメントを作成し、利用者様一人ひとりがどの様な環境で生活されてきたかを知るように努めています。また、前任CMや事業所からの情報提供を元に情報把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	PCネットワークが構築されているので、バイタルや排泄などの情報を随時確認できます。その他、アセスメントや毎日の申し送り・ケース記録・定期的なカンファレンスの中で日々の暮らし方・その日の心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が起きた際や定期的又は随時のカンファレンスの際、モニタリングを行い、全職種で話し合い、意見やアイデアを出し合い検討しています。ご家族への意見を伺い、情報を取り入れながら介護計画を作成します。	本人・家族と話し合い、職員のアイデアを取り入れ、利用者本位の現状にあった介護計画を作成している。状況の変化に応じて、柔軟な見直しや対応をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力が随時できる環境を整えており、随時ケース記録やデータを確認する事ができます。また、担当制を設け、個々の把握に努め、カンファレンス等に活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団アクティビティは勿論、ご家族や本人の要望により、買い物やショッピング、グルメツアー、散歩など個別アクティビティを実践しております。職員は常に今、何が必要かを考え柔軟な支援を実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域資源の情報を得るなどし、アクティビティの一環として、ヤクルトの訪問販売、地域のお店へ買い物や外食をする「ショッピング」「グルメツアー」を実施しています。実際にお店で買い物し、お金の支払いを行うことなどによる生活リハビリを実践しています。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を受け止め、かかりつけ医を決めています。定期的な往診又は、必要に応じて協力医療機関と連携を図り、適切な医療を支援しています。また、必要に応じては歯科受診なども対応します。	本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医にしている。受診は家族の同行を基本にしているが、職員が代行することもある。受診の結果は、家族と事業所が共有している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に常勤の看護員を配置し、日々の利用者様の健康状態の把握に努めています。毎朝のバイタル測定、排尿排便チェック等、観察を行い、必要に応じて看護員は協力医療機関と連携を図り、往診や受診を支援します。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への面会は勿論、ご家族へ病状の説明や経過観察等について安心できるよう説明をします。また、入院期間中のグループホームの契約内容の再確認を行い、退院後の生活についても話し合います。病院関係者との面談においても契約内容に関する理解を求め、退院に向けた話し合いなどを行います。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、主治医よりムンテラを受け、看取り介護について説明を行います。事業所において、できる範囲を説明し、理解を得た場合に、ご家族の意向をふまえ支援します。この場合、看護員が中心となり全職員が不安の軽減を図るケアの提供をいたします。	重度化した場合や終末期は、本人・家族と話し合い、意向にそった支援・対応ができるよう取り組んでいる。職員と看護師は情報交換や連携をとり、家族に安心してもらえるようケアをしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ひやり・はっと報告書、事故報告書により実際の問題点について考察し、「事故予防研修」「緊急シミュレーション」等の研修を実施。また、リスクマネジメント係を中心とした介護員が自ら考えるシステムを構築しています。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間を想定した総合防災訓練の実施。避難誘導シミュレーション、避難誘導訓練により、全職員への意識向上を図り、身につける訓練を繰り返し行っています。また、派遣相談員の総合防災訓練の参加や運営推進会議にて訓練の報告や協力について話し合いを行っています。	利用者一人ひとりの状態を踏まえて、災害時の具体的な避難方法について定期的に設け確実な避難誘導ができるよう取り組んでいる。職員が自主的に避難訓練計画を立て、地域の方々の参加も呼びかけ、協力も得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに注意し、特に入浴・排泄等の際には、プライバシーに配慮した声掛けをしています。	利用者の生活暦をしっかりと把握し、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアをこころがけている。ことばのトーンやことばかけを工夫して話しかけ、自分で決めてもらえるよう対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優先的に利用者様の希望を聞き入れるようにしております。利用者様の自己決定して頂きやすい声掛けを行っております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティや入浴など、決まったスケジュールはありますが、利用者様の体調や希望を考慮し、個々に合わせた支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪・爪切り・髭剃りなど行っております。また、季節に合わせた服装を用意し、本人様に好きな物を選んで頂き好きな洋服を着て頂けるように支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に、ご飯やみそ汁の盛り付けや食器洗い等行っております。また、同じテーブルで会話をしながら楽しく食事をして頂けるように支援しています。	買い物、調理、食事の後片付けなど、利用者の力を活かしながら職員も一緒に行っている。職員は同じ食卓を囲んで、できるだけ自分の力で食べてもらえるよう、あきらめないう見守りながら支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた食事形態、また、栄養士によるバランスを考えた食事を提供しております。食分量・水分量のチェックを行い、栄養・水分不足にならない様に支援し、健康状態を確認しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っております。また、義歯の方には、毎日ボリデント洗浄を行い、その他の利用者様は、自力で歯みがきを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを実施し利用者様一人一人の排泄パターンの把握に努めています。また、定期的にトイレ誘導の声掛けを行っております。	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう、本人の生活リズムにそった支援をしている。失敗してしまった場合は、さりげなく誘導し、周囲に気づかれないよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の活動に積極的に運動を取り入れております。また、個々に合わせて毎日牛乳やヤクルトを提供や、散歩などを取り入れ便秘予防に努めております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに希望を伺い、希望に沿った入浴日やシャワー浴、足浴も行っています。	利用者のその日の希望を確認し、楽しんで入浴してもらえるよう雰囲気づくりをしている。利用者の身体機能に合わせて入浴できるよう、移動式の浴槽・機械浴が設置されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムや体調などを考慮し、居室で休んで頂いております。また、利用者様に安眠して頂ける様、温度や湿度管理に気配りしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護員の指導の下、薬の目的や副作用など理解し服薬介助行っております。服薬後は、利用者様の様子観察を行い症状に応じ看護員へ報告しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日変化のあるアクティビティを行っております。また、週一回のヤクルト販売による買い物を行っております。個別には、散歩、買い物などを実施し気分転換を図っております。1人1人に合わせ食器洗浄・食事準備、掃除などを行い役割を持って生活して頂ける様支援しております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別アクティビティとして散歩や定期的なショッピング・バスドライブ・グルメツアーを企画し、利用者様の要望に沿った外出支援を行っております。また、ご家族様の協力の下、病院や買い物などの外出もされております。	事業所の周囲の環境を活かし、日常的に外出支援をしている。外出計画を立てるときは、前もって職員がトイレや車椅子の利用が可能かなど調べて、安全な外出ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>生活リハビリの一環として自己管理して頂いております。ショッピングやグルメツアーやカルト販売等で自分でお支払いされています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を所持して頂きご家族様や友人様と自由に連絡を取って頂いております。また、返事の手紙を書き、大切な人と手紙のやり取りなども支援しております。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間の湿度や温度に管理を徹底しております。また、季節が感じられる様に工作物を展示しております。</p>	<p>自然のひかりがふんだんに入り、明るく開放感のある空間となっている。利用者同士誰とでも話ができるよう、ときどきテーブルの席替えなどを行っている。ソファがほどこい場所に置かれ、いつでもくつろげる雰囲気ができている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事やACTの際には、利用者様の関係性を考慮した配席にしております。テーブル以外にソファを設置し気の合う利用者様同士が過ごせる場所を提供しております。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様が今まで使い慣れた、テレビや仏壇など自由に物をお持ちいただき、今までと変わらない生活が送れるような居室づくりに努めております。</p>	<p>なじみのものを活かし、その人らしい生活ができるよう工夫している。季節や身体機能にあわせ、ベッドの位置を変えたり模様替えをしている。全室、掃き出し窓で、明るく季節感が感じられ、自由な出入りができるようになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレのマークを大きくしわかりやすく表記したり、障害に合わせて入浴できる浴槽として機械浴を準備しております。施設全体のドアは、スライドドアは使用しバリアフリーで安全な作りになっております。</p>		